

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都港区高輪 1-5-38
園名	ミアヘルサ保育園ゆらりん高輪

1 活動のテーマ

<テーマ>

感情

<テーマの設定理由>

5歳児が入園してきた際、コロナウィルス感染症の発症・流行によりマスクの着用が必要となり、表情や感情を汲み取ることが難しく、他児との距離も制限され、幼少期に築かれるべきはずであった他者との関わり、コミュニケーションの不足に繋がっているのではないかと感じた。この活動を通して、自分の感情と向き合い、感情を整理する方法を見つける手がかりになるのではないかと感じた。特に喜怒哀楽に着目し、自分の感情の表現の仕方を様々な体験を通じて身に付けていけたらと思う。活動を重ねることで幼児クラス、特に5歳児の子どもたちがポジティブで前向きな思考や発言の探索につながるのではないと思う。

2 活動スケジュール

7月10日 感情とは何かについて知る。
7月11日 感情とは何かについて知る。
8月6日 「喜び」について知る。
8月8日 「喜び」について知る。
9月12日 「怒り」について知る。
10月3日 「哀しみ」について知る。
11月28日 色で自分の感情を表現してみよう。
12月4日 自分自身の感情を表現したTシャツ作りをする。
12月24日 政策したTシャツを着て自己表現を楽しむ。

3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・アロマ（4種類）・音楽（4曲）・パソコン・スピーカー・風船・小麦粉
・漏斗・新聞紙・ボール・スプーン・ブルーシート・ふきん

4 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・ 怒りに関して興味を示し、怒りの鎮め方を楽しみながら知る。
- ・ 怒りに関して考えてみる。
- ・ 怒りを鎮める方法を実際に試してみる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

普段の子どもたちの会話を聞いていると、すぐに怒りの感情を出している場面が何度も見受けられるので、そこで男の子、女の子のイラストを用いて「こんな時どんな言葉を伝えたら良いかな？」クイズを出してみると「すぐに謝った方が絶対にいいね！」と客観視してはいたが、実際にすぐに謝ることができるか尋ねると「難しいかも…」と素直に答えていた。

「いらいらばいばい」「おこりたくなったらやってみて！」の絵本と一緒に読み怒りの解消方法を実践してみた。「これならできるかも！」「簡単かも！」と前向きに答えている姿が見られた。中でも最後の3つのルールは子どもたちの印象に残っていたようだ。

匂いはオレンジが人気であった。中には檜の匂いを嗅いで「これ前に泊まったホテルの匂い、落ち着く～」と話していた児がいた。

音楽はジャンル別に4曲聴いてみて、自分が好きだったり落ち着くと思うものを選んでもらった。それぞれの音楽の特徴（落ち着く、激しい、自然っぽい）を言うことはできていたが、好き嫌いの判断は少し戸惑っている様子があった。

スクイズ作りでは、実際に自分で作ってみて小麦粉の触り心地を楽しんでいて「気持ちいい～！」と喜んでいた。

5 振り返り



<振り返りによって得た先生の気づき>

「怒り」という感情の印象を子どもたちに聞いてみると「疲れる」「イライラする」「頭が痛くなる」ととてもネガティブな気持ちという印象を持っていた。

怒りは感情の中でもっともパワー（体力）を消耗する感情であり、時には怒って発散することは大事ではあるが、ずっと怒ってばかりだと体に良くない影響が起こることを話した。「どんなよくないことがあると思う？」と子どもたちに聞くと「疲れる！」

「眠くなる！」「頭が痛くなる。」と自身の経験を踏まえながら話してくれた。

最後にペアになって自身の「ぶんせきカード」を読み合っ、相手が怒るポイントを知り、音楽や匂いなどは人によってそれぞれ好みがあることを知れたと思う。

すくわく終了後、怒りが沸いてきたときにスクイーズを作ったことを思い出して感触を楽しんで怒りを鎮めている姿が見られた。

「これをにぎっていると気持ちがいいんだよ～」と何人かが教えてくれた。気に入っている姿が見られるのでしばらくは園でしようしてみることにした。

その後も怒りが沸いてくるとスクイーズに触って気持ちを落ち着かせていた。